

令和7年度 市長のタウンミーティング

テーマ こどもまんなか社会 ～みんなで育む こどもの未来～
日時 7月6日（日）午前10時30分～11時45分
会場 クロスベイ新湊 2階 iCN ホール
出席者 市長、企画管理部長、こども家庭部長、教育委員会事務局長、
企画管理部次長、こども家庭部次長、教育委員会次長、子育て支援課長、
こども福祉課長、学校教育課長、未来創造課長（司会）
参加者 42名（ほかメディア3）

質疑応答

【発言者1】

旧放生津小学校跡地の利活用について、放生津保育園を旧放生津小学校へ移設する際、単純な移転ではなく、市内外から子育て世代を呼び込む魅力的なものにしてほしい。

回答【市長】

新湊放生津小学校は、令和9年から改修後の旧新湊小学校を使用する予定である。現在は、旧放生津小学校の校舎を使用しているが、移転後の跡地利活用が今後の大きな課題となっている。地域の皆さんや子どもたちの意見を聞きながら、地域の活性化に繋がる事業を検討しているところである。

放生津保育園には旧放生津小学校の校舎の一角に入ってもらい、子どもたちにとって良い環境を作りながら、相乗効果が得られるような活用に向けて、様々な可能性の協議を進めている。

現在、保育環境はデジタル技術の活用が進み、これまで実現できなかったことが可能になっている。デジタル技術を活用することで、より安全に保護者の皆さんと情報共有しながら、子どもたちの保育や幼児教育を行うこともできるようになった。積極的に情報収集を行い、取組を進めていきたいと考えている。

また、新湊地域は子どもたちの健やかな成長を支える事業や環境に対し、地域の皆さんの協力が非常に温かい。新しい放生津保育園が開園する際も、地域の皆さんの協力がとても重要であると考えている。こうした協力体制は、結果として良い評価につながり、この地域ならではの特色を生み出すことになる。地域の皆さんの声を取り入れながら保育園を運営していきたいと考えている。

【発言者 2】

障がいがある子がいる。周りの影響を受けながら育ててほしく、この子を保育園に入れたいと考えていたが、障がい児という理由もあり上の子と同じ保育園に入ることが難しい状況であった。病院からの協力で入園できたが、子どもの通院やリハビリで妻に負担がかかったり、保育時間の調整があったりなど、障がい児を持つ家庭は生活しにくいと感じている。現状が改善されるようにしてほしい。

回答【市長】

障がいのあるお子さんの受け入れ可否は、障がいの内容や状態による。障がいがあるからといって一律に受け入れを拒否するわけではないものの、受け入れる場合には医療的ケアや環境体制を整えることができる施設でなければ、対応が難しい。

射水市では、医療的ケア児の受け入れに関するガイドラインを策定しており、痰の吸引や排せつの世話などのケア内容について、安全に集団保育を行うための条件がある。障がいの状態やケア内容によるが、引き続き、子育て支援課を通じて状況をお聞きしながら、可能な支援を行っていききたいと考えている。

【発言者 3】

学校支援コーディネーターとして活動している。学校支援コーディネーターは、学校と地域の間を取り持つ役割を担い、活動費が支給されている。活動の中でボランティアの方々には、無償で協力いただいているが、非常に心苦しい。最近では、有償ボランティアもあるので、ボランティアの方々に対し、市として今後何かしらの対応をする予定はあるのか。

回答【市長】

多くの方々から、放課後子ども教室やコミュニティスクールにおけるボランティアに協力いただき、子どもたちのより良い学びや教育環境の整備が可能となっていることを感謝している。コミュニティスクールは、学校の先生の負担軽減を考慮し、地域の皆さんとの関わりをもちながら、子どもたちに多様な体験を提供する目的で始まった。

ボランティアの方々への報酬が不十分であるという意見はよく分かるが、財政状況が厳しい中で、どこまでできるか具体的な答えを出しづらい。活動費の中で、お茶代などをやりくりしていただくことはできると思うが、国の方針のもと進められており、現状では有償ボランティアとして対価を含めるものには

なっていない。

コミュニティスクールにおいて、学校支援コーディネーターはボランティアの方々と学校活動を繋ぎ、地域との繋がりを構築する要である。その役割は非常に重要と認識しており、コーディネーターの活動については正当な報酬をお渡ししている。

【発言者4】

市として、学力向上や偏差値教育的な取組を行うことはあるのか。文化活動やクラブ活動などを通じて、豊かな生活を送ることはできると思うが、偏差値の高い大学へ進学し、就職するのが良いという価値観はまだある。学力を育む環境が整っていない場合、射水市が移住先として選ばれにくくなるのではないか。

回答【市長】

子どもたちが基礎的な学力を身につけられるように、タブレット端末の環境整備を市内小中学校で進めてきており、先生方にも指導環境の整備に尽力いただいている。学校ごとに特徴はあるかもしれないが、タブレットを活用し、視覚的な学びを促進する指導方法も導入している。

また、ひとり親家庭を対象とした学習指導事業も一部ボランティア団体からの協力を得ながら実施している。さらに、補充学習事業についても、市内の高等教育機関の学生に協力いただき実施することも考えられる。コロナ禍で中断されたが、子どもたちの生活スタイルや状況を踏まえながら、必要な教育支援を教育委員会と協議し取り組んでいきたい。

【発言者5】

生徒数が減少している一方で、外国人児童・生徒、保護者の割合が増加している。外国人児童が多い学校では、外国人児童支援員の配置や教員の加配を実施しているが、将来さらに外国人児童の増加が予想される。市としてどのような支援策を講じていくのか。

回答【市長】

射水市内において外国人居住者の増加が続いており、射水市の総人口に占める外国人の割合は富山県内の市町村で最も高い状況にある。これに伴い、市内の小中学校には外国籍の児童・生徒が増加している。近年では特定の地域だけでなく、市内全域の学校で外国籍の子どもが見られるようになっており、外国

籍の児童・生徒へのサポートが重要な課題となっている。さらに、保護者の中には日本語がほとんど話せない方もおり、情報共有が困難となる場合もあり、非常に難しい。県教育委員会の協力を得ながら加配などの対応を行っているが、県教育委員会の人的余裕が十分でないため、必要な加配を十分に確保できていない状況もある。また、翻訳機（ポケトークなど）を配置し、コミュニケーションを円滑にするための取組も行っている。

こうした外国人居住者に対する教育や行政サービスの充実是全国的に注目されており、射水市は早期からこれらの課題に直面し、取組を進め、国に対して要望もしている。外国籍児童に対するきめ細かな対応には、教員や支援員の配置を国の支援で実現する必要があると考えている。市としても独自での対応が可能か引き続き検討を進める。

また、県教育委員会による高校再編議論の中で、外国語に特化した学科や学校を設置し、地域の小・中学校と連携して外国籍児童への指導を支援する案も挙がっている。注視が必要であり、具体的な方向性は定まっていないが、市としても今後の対策や取組に関する検討を継続していく。

【発言者 6】

高齢者の就業変化に伴い、祖父母に子どもを預けることができにくくなってきており、病児保育の重要性が増しているが、射水市の病児保育の利用件数は低い。病児保育の拡充は保護者だけでなく、祖父母世代の高齢者を含めた就業支援においても重要である。また、医療的ケア児や障がい児への総合的な支援も構築してほしい。

回答【市長】

射水市内の病児保育は、射水おおぞら保育園で実施している。受け入れ人数や体制は、射水市の人口規模を踏まえると、課題があると認識している。県の協力により、昨年7月から県内10市町（呉西6市・魚津市・黒部市・入善町・朝日町）で、病児保育の相互利用が可能となっている。一方で、富山市・舟橋村・立山町・上市町・滑川市は入っておらず、病児保育が充実している富山市の施設を射水市は利用できない。医師や看護師といった人員の確保が最大の課題であり、市としても関係者と連携し、取組を進めたいと考えている。

医療的ケアについては、市がガイドラインを整備し、提供可能なサービスを明確にしながら受け入れ体制の整備を進めている。ただし、受け入れ可能な症状の範囲に課題があり、人員確保や医療機関と連携しながら、検討し取り組んでいきたい。